

日本行動分析学会 第31回年次大会 特別講演
(2013年7月27日・28日 岐阜大学)

特別講演

行動障害とABA—過去・現在・未来—

ABA to Behavior Disorder: Past, Present and Future

園山繁樹(筑波大学)

Shigeki Sonoyama (Tsukuba University)

司会：奥田健次(行動コーチングアカデミー)

<講演要旨>

約40年前、大学1年の夏休みに行った知的障害のある人の施設のボランティア実習で、洋式便器に座って性器いじりを長時間していた男児、毎日1回は物壊しをしていた青年に出会いましたが、私はなす術を持ちませんでした。それから20年たって、自閉症や知的障害に関する知識と応用行動分析学の知識・技術を身につけたはずでしたが、強度行動障害を示すAさんの前にその自負は簡単に打ち壊されました。母親の「専門家は信用できません。養護学校や施設には専門家がいますはずなのに、20年間私の娘に何もしてくれませんでした」という言葉に、“専門家”として何とか応えなければ、と思われ、それ以来、行動障害は私の重要な研究テーマとなりました。

1999年に筑波大学で開催された第17回年次大会で、口頭発表「障害のある人の行動障害の理解と援助における確立操作・状況事象概念の有用性：新たな援助アプローチの展開に向けて」を行いました。当時、わが国では本学会をはじめ他学会でも、行動障害についての発表や論文はほとんどありませんでした。実践の参考になる本も2冊程度でした。しかし、*JABA*には行動障害に関する論文は多数掲載されていました。この口頭発表では、わが国での行動障害に関する研究が活発になされることを願いつつ、Durand(1990)、Gardner et al.(1986)、Carr & Smith(1995)、Smith & Iwata(1997)等を取り上げ、特に状況事象(setting events)や確立操作(establishing operations)に焦点を当て、行動障害に対する援助アプローチを論じました。状況事象や確立操作に焦点を当てることは、その後の生活全体に焦点を当てること、生活全体を見直すこと、最適な生活を設計すること、といった行動障害に対する包括的な支援の在り方につながるものでした。

2000年に必要に駆られ当時の実践をまとめて「行動障害の理解と援助」(共編著)を出版しました。同時期に、“*Antecedent Control: Innovative Approaches to Behavior Support*”(Edited by J. Luiselli & M. Cameron, Baltimore: Paul H. Brookes, 1998. 邦題「挑戦的行動の先行子操作」)に出会い、その第1章を読んで身震いしました。Carr,E.G.らは従来の微視的(molecular)分析に巨視的(molar)分析を加えた包括的なアプローチを提案し、すでに実践していたのです。そして、巨視的な展開に状況事象や確立操作が重要な役割を果たしていることが強調されていたのです。

この10年間に本学会での行動障害に関する発表は飛躍的に増え、応用行動分析学に基づく支援方法に関する論文や書籍も多数入手できるようになりました。しかし、取り組むべき課題がたくさん残されているのも事実です。本講演では、行動障害に対する応用行動分析学の方法論の変遷とその裏付けとなる理論的・概念的变化を踏まえた上で、今後の実践・研究の在り方を論じたいと思います。

<プロフィール>

大阪教育大学教育学部・大学院教育学研究科(修士課程)にて高木俊一郎先生の指導を受ける。

筑波大学大学院心身障害学研究科(博士課程)にて小林重雄先生の指導を受ける。

このはな幼稚園にて秋元久美江園長のもと統合保育の実践・研究に当たる。

その後、足立区教育センター、中国短期大学、西南女学院大学を経て、2002年より筑波大学。

研究テーマは、自閉症、行動障害、統合保育、等。現在は選択性緘黙に注力。

<主な著書・翻訳書>

「統合保育の方法論」(園山繁樹著)相川書房, 1996年

「行動障害の理解と援助」(長畑正道・小林重雄・野口幸弘・園山繁樹編著)コレール社, 2000年

「挑戦的行動の先行子操作」(園山繁樹・野口幸弘・山根正夫・平澤紀子・北原信訳)二瓶社, 2001年

「入門・問題行動の機能的アセスメントと介入」(園山繁樹訳)二瓶社, 2002年

「自閉性障害の理解と援助」(小林重雄・園山繁樹・野口幸弘編著)コレール社, 2003年

「子どもの発達行動分析・新訂訳」(園山繁樹・根ヶ山俊介・山口薫訳)二瓶社, 2003年

「挑戦的行動と発達障害」(園山繁樹・下山真衣訳)コレール社, 2004年

「行動変容法入門」(園山繁樹・野呂文行・渡部匡隆・大石幸二訳)二瓶社, 2006年

「自閉症児と絵カードでコミュニケーション—PECSとAAC—」(園山繁樹・竹内康二訳)二瓶社, 2006年

「発達障害のある人と楽しく学習—好みを生かした指導—」(園山繁樹・松下浩之・村本浄司訳)二瓶社, 2010年